

令和6年度 議会報告意見交換会における意見要望等のまとめ

分類	項目	実態・意見・要望
家庭	家事	60, 70代の男性は家事ができない人が多い
		お父さんが家の掃除をしない 家事をしない
		まだまだ女性の仕事が多い
		家での家事が分担できない 女性がするのが当たり前の考えが多い
		家事、炊事、後片付けも主婦が多い 家庭の仕事はほとんど女性
		家事ばかりしている 子どもの迎え(も女性の仕事)
		家事分担 女性の家事の負担が大きい
		家族5人、主人は昔人間だが、年を重ねるにつれ協力してくれる
		家庭の仕事。手伝いではなく、自分の仕事として
		高齢家庭では(女性が)分担しているが、若い方は、男女関係なく、出来ているのでは
		高齢での家事(は大変である。)(高齢者家庭)全般のありかた(について考えてほしい)
		助け合いながら生活していかなければ成り立たなくなってきた
		女性の家事労働のほうが多い
		女性男性関係なく家事の役割分担を
		食事、洗濯が主に主婦
		掃除、洗濯、夫がやってくれない 買い物、家事も協力してほしい
		男性の家事参加は若い人は増えている感じがある。
		夫のご飯をつくるのが当たり前と思っている
		父が洗濯物をしていると近所の人に文句を言われる
		料理を作るのは基本女性 男性の立場が上 子どもの弁当作りは女性が多い
	男性は料理教室へ行ってほしい。	
	介護	家族以外の支えが必要
		休みやすい立場の方が介護の負担が大きい
		親の介護も主婦がしている場合が多い
	核家族化	核家族の子育て不安 子育ての負担
		核家族での虐待が増えている
		核家族で子供たちの心が育たない
		仕事、家事さらに子育てと重労働。
	多世代家庭	多世代家庭では、引き継ぐ良い慣習や伝統教養もある。情操面心情面で安定する。
		祖父母との同居だと育児の負担も少なくなる
		多世代家族は良い所もあるが、問題が多く深刻になる。
		田舎の良さは家族で子供の面倒を見てくれること (食べ物や)物を大切にすること(の教育は多世代家庭でできていた)
	育児	(子どもが病気になったときに)休むのは女性
		育児1歳まで(の積極的支援を)
		育児に母親が関わることが今でも多い(父親の参画が少ない)
		核家族による女性(母親)への子育て負担(がさらに大きい)
		子育てに年寄りの協力も必要 嫁が働きやすいように協力が必要
		子供が病気になった時、迎えに行くのは母親
		若い男の人の方が家庭に子育てに協力的
		親が子どもを振り向かせる努力を
		男性が子供を育てることが少なくほとんど仕事で、女性の育児が多い
男性の育児参加が少ない 負担は担っても情緒的安定を女性は願っている		
新見で子育て(の支援の充実)をして、(移住希望の)人を増やす		
昔は子どもの入学式などはお母さんが行っていたが、今は夫婦ともに参加する家が増えた。		
20代で県外から(来た。) (新見市では)子育てが困る		
出産子育て ↔ 少子化解消 関連する課題が解消できずジレンマを感じる		
両親県外在住でサポートをお願いする人がいない		

令和6年度 議会報告意見交換会における意見要望等のまとめ

地域	会合・行事	イベントや集まりへの地域住民の認識が薄い
		いろいろ事業をしても出てくる人は決まっている。男性が出てこない。
		サロンは女性ばかりで、男性の参加がない。
		地域での女性の決定権は軽い
		会議に出るのはほとんど男性 地域の行事に参加するのはほとんど男性
		近所の友達との声かけ
		周囲の理解や協力を得て地域活動を
		女性の決定権がなく男性中心の運営
		女性の地域貢献が大きい。男性の集いを増やす取り組みをしては
		女性目線で見えて感じたことの発信が出来ていない
		少子高齢化に対し未来を考えることを
		男女で参加する行事が少ない
		男性、女性とこだわりなく出来ることをやるとそれほど問題ない
		男性・女性の(先入観・固定概念での)役割を押し付けられる場合が多い
		男性の行事参加が少ない(公民館行事など)
		男性の参加が少ない
		男性主体の行事が多い
		男性中心、女性も企画段階から参加できる社会であるべき
		地域コミュニティは男性が少なく、ほとんどが女性である。若い人が出ない。
		地域コミュニティへの参加は女性が多く、寄り合いは男性の参加が多い傾向がある。
		地域での雑用が多い
		地域の役をお願いした時、家族に反対された(家事が疎かになる)
		地域の役員は男性が多い
		地域ボランティアの参加を募る
		地域役員で出るのは男性が多い
	地域役員に女性が少なかったが、今年から増え意見が尊重されるようになった	
	特に子育て世代の参加が難しい	
	昔ながらの伝統文化、祭りや草刈り役など負担が都市より多い	
	コミュニティ	近所つきあいが難しい
		一人暮らしの女性が多い
		遊ぶ場所がない 一緒に行く友達がいない
		子どもがいない(ひとり暮らしの方)への言葉がけ
	婦人会活動	独居老人の過ごし方 地域への参加
婦人会に年寄りが多く、若い人が入らない 婦人会の夜の会合が多く、参加できない。婦人会が無くなってきている。		
ボランティア	ボランティアの場所やすることが少ない ボランティア時女性が子供を見ている機会が多く、働く時間があまりない	
学校・職場	職場の環境	職場で出産、育児に対する冷たい視線を感じる
		女性の問題や地位能力に関する職場の理解不足
		会社でも女性だから力がないという理由で部署を外された
		子どもの部活動や病気の時の対応は、お母さんがする場合が多い。お父さんも参加できるように企業への助成制度(や休業制度)を作してほしい。
		女性が多い職場が活気がある
		職場で、女性の生理のことを言いにくい環境。
		家庭内で男女にバランスが取れていても、社会に出ると格差がある
		女性だから働きにくいのか、子育て中だから働きにくいのか考えていただきたい
		職業に対する固定観念が強すぎる
		職場で実務(事務)にあたる人は女性が多い
		人材不足 出産すると女性は退職する。出産しても正規雇用の継続を
		男、女と区別をつけていること自体がおかしい
		男性とは産休育休後の立場で異なる(職場)

令和6年度 議会報告意見交換会における意見要望等のまとめ

学校・職場	職場の 育休取得	育休の取得について、まだまだ男性は取りづらい環境にある
		男性も仕事を休みやすくすればよい
		父親の育休取得の普及を
		仕事と育休の両立は難しい、男性もあたりまえに育休を取得できる社会を
		職場では休暇の取得を進めている 子育て世代には以前より取得しやすい
	学校の環境	男の人の育休の取りにくさ(を感じる)
		性による制限のある部活がなくなりつつある サッカー、野球など
		クラスに女子の人数を増やす 30人(14人) 女性の先生を増やす
		今の高校生うらやましい(制服など)
社会	人権・慣習	高い高齢者の男女平等意識の理解が深まらない
		女性が後に引く方が良いと思う人が多い
		昔からの慣習が多い
		昔からの慣習を切り替えることが難しい
		昔ながらの慣習が多く残りすぎ
		男性の意見が強すぎる
		地区の寄合では、女性は小間使いになりやすい
		家事は女性の仕事という考え方
		家庭では、男性が上から目線で、女性の意見がとりにくい。
		義父や義母の代から男性は外、女性は中という考えがある
		今は性差がない、昔は家父長制 男は女はという概念やしきたりが強かった
		女性は黙っておくという雰囲気がある。
		女性のほうが社会参加が多い
	性差の 相互理解	小学校から高校までは男女平等、社会に出れば途端に男性社会へ
		男女差別のない平等な社会であってほしい
		夫婦の間、固定的役割がある
		お産の大変さを男性は分かっているの？
	社会の ありかた	男性がさわれない仕事がある(入浴等)
		男性も生理の痛みを体験する性教育をしてほしい。
		自助、共助、公助に加え近所で地域を支える
	民生・ 愛育委員	女性のメリットとして、女性の方が安い(お店)
		女性を保護するための女性専用車両がある
		民生委員は高齢者の世話ばかりでなく、子育てにも手を貸してほしい。
男女共同参画	社会進出の壁	愛育委員さん、以前より男性の委員が増えている
		(女性の)地域への進出も必要だが、多くのことを担っている女性は地域活動を控えがち
		(女性は)家庭のリーダー(として活躍している)
		(地域や男女間で)コミュニケーションをはかる努力を
		家事は女性という認識だったが、互いに補い合う夫婦へと向上しているように感じる
		輝きたい人ばかりではない、皆で、支えている人も認めて(女性の立場を考えてほしい)
		高齢者は男女共同参画の意味を考えて
		仕事、家事、子育ての問題、自分時間が少なくなる
		子育て中の昇進は難しい
		女性の社会参画→男性の家事参画(が必要)
		男とか女ではなく個人として認められる社会の実現
		能力にある女性はもっと社会で活躍できるようみんなで協力すべき
		地域によると男女で参加ができている(地域差がある)
女性が生き生きと輝くには、全ての教育に力を入れること。		

令和6年度 議会報告意見交換会における意見要望等のまとめ

男女共同参画	女性管理職	女性の子育てや介護の負担が大きいことが賃金格差や男女の不平等に影響し、管理職への登用が阻まれている。
		女性の無理な登用は良くない。能力のある人が男女問わず登用されるべき。
		女性管理職の登用が少ない
		女性管理職の登用を多くすべき 女性管理職の割合がまだまだ少ない
		職場で管理職等の責任ある立場になると、労働時間が増え家族子どもが犠牲になる
		管理職になりたくない方もいるのでは 家庭との関係で煩わしい
		会社のキャリアアップについて、女性は遅く、男性との格差がある。
行政	保育・託児支援	子育てを支える支援制度（の拡充を）
		既存の施設で、親子が触れ合う、お楽しみ会や読み聞かせ会を実施してほしい。
		学童保育も無料にしてほしい
		子ども園の預かりや、学童保育に力を入れてほしい。
		託児所について、隠れ保育士が参加できるようにしてほしい。
		同居世帯以外の子育て世帯への支援(にこたん等活用)の周知の方法と徹底
		幼児保育不足の解消、学童の年齢緩和、預け入れ施設の周辺部への配置
		育児休暇の取得をより促すため、(学童を含め)児童保育料を安くする
		学童保育料が高い
		核家族化で助けを求めるところがない
		シングルマザーやシングルファザーへの支援を手厚くしてほしい。
	雇用確保	介護、看護、保育の職を新見に増やす
		市内で働きたいけど働く場所が少ない
		女性が就ける正規雇用の仕事が少ない(女性は非正規でいいだろうという考え方)
		女性が働ける企業が少ない
		女性は正規職員で雇ってもらにくい。資格がないと正社員になりにくい。もっと働ける場を作ってほしい。
		女性は働く場所(就業)が限られる
		男性女性関係なく働ける場所を増やすこと
		正職の場(女性の正規採用)が少ない
		高校生たちが将来、働きやすい住みやすい環境を整えることが大人の役目
		若い世代が就職で故郷を離れていく
	育児取得率の向上	職場における育児休業取得率の低さの解消
		育児休業制度が活用されない。活用の普及を
		男性の育児休業の取りやすさを支援してほしい
		男性の育児休業が取れるよう中小企業への経済的支援と導入への働きかけ
		一般企業では男性が育児休業を取るのは、まだまだ敷居が高い。助成制度を設けてほしい。
		男性が育児休業を取りやすくするため、社会で子供を見る環境をつくる
	賃金格差是正	育児休業で休んだ場合、給与給料の上がない会社が多い
		育児休業の充実や子育て期間中の賃金保障、賃金格差を是正して元気な新見にしていく。
起業支援	仕事の給料男性の方が多い	
医療(産婦人科)	女性の起業支援をしてほしい。企業が育てば、地元に残る若者も増えると思う。	
	安心して出産できる環境を作ってほしい。	
	産科がないことで不安不便を感じている人がいる	
	子どもを産むのに助産院が遠い	
医療(小児)	市内で分娩ができない	
	出産する産院がない、	
医療(救急)	小児科、特に夜間に診て頂ける病院がなくとても不安	
	夜間休日の(小児科の)病院がない ←子どもの人数の減少	
医療(救急)	救急搬送の受け入れ態勢が不十分	

令和6年度 議会報告意見交換会における意見要望等のまとめ

行政	結婚	結婚してよかった一人じゃない安心感（68歳）
		結婚しない男女が多い
		結婚育児に良いイメージが少なく、結婚しない子供をもたない人が増えた
		若い男女の出会いの場がない
	交通支援	非婚化が問題
		(一人暮らしが増加しているので)買い物支援(行ってほしい)
		公共交通を市域全体で考える
		地域行事参加の交通手段支援がほしい
	給食の ありかた	バイトに行く女性が乗り合いタクシーを利用できるようになると良い。
		給食無償化というけれど(無償制度の検証を)
		食べ物のありがたさ分かっているの？
	住宅支援	親の作ってくれる弁当のありがたさ
		若い夫婦が安く住める家をもっと拡充すべき
	高齢者・介護	若い夫婦が安く住める家を提供する
		一人暮らしなので将来に不安
		年金生活に不安がある
高齢者世帯、単身世帯の増加による老老介護の支援を		
介護、親世代の問題(について支援を考えてほしい)		
高校存続	介護職の賃金の問題	
	介護職の人材確保が必要	
	市内公立高校から公立大学にエスカレーターであがれる制度を作してほしい。	
情報発信	新見高校に他所から人が来るような施策をしてほしいし、地元の子が行くように施策を行ってほしい。	
	寮の設備をもっと充実してほしい	
生理支援	新見市を情報発信して人口を増やす 移住者を増やす	
商業施策	新見に関する情報発信を全国に向けてもっとすべき。新見を知ってもらう	
地域猫対策	学校のトイレにナプキンを配置してほしい。	
公園整備	市内で買い物に行こうにも子供服の店がない	
学校教育	飼っていた犬、猫が野良になっているケースがある。行政支援してほしい。	
納税	遊べる場所が少ないから増やしてほしい(旧校庭活用も含め)	
	人口が減少し、少子高齢化で学校が減ってきている。学校がない地域などいる意味がない。将来がとても不安。	
	所得税103万円扶養130万円の壁が女性の活躍を制限しているので改善してほしい。	
施策全般	サービスを受けるためにしっかり働いて納税することで課題を克服する	
	保育も医療も資本(財源)がなければサービスを受けられない	
議会	情報発信	新見市は他所の成功事例をもっと真似すべき
	改革	一人ひとりが新見を考えていく
		このような意見集約の後に、結果がどうなったかを報告してほしい。
議員の仕事が一般に理解されない		
改革	市議会に女性を増やしてほしい	
	若い女性の集まりに議員が出向き、情報交換する	
	女性議員が少ない高齢の議員が多いことから、若い人が議員になりやすい環境をつくる	